

かほく市教育委員会

令和5年度 全国学力・学習状況調査 結果の概要



1. 調査の目的

- ◇ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. かほく市における学力向上の取組

- ◆ 昨年度の学力調査において、全国平均や県平均を上回っていたものの、学習内容の定着がまだ十分ではない児童生徒がみられた。そこで、きめ細かな指導を行うとともに、学習意欲の向上や「書く力」の育成に努めてきた。
- ◆ 昨年度の質問紙調査において、小学校のICT機器の活用がやや低い傾向にあることがわかった。そこで、指定校による公開研究発表会等を通して、ICT機器を活用することの良さをかほく市全体に広く発信し、学習場面に応じた1人1台端末の活用を充実させてきた。
- ◆ 他校の同一教科担当者と連携した教科研修会を開催し、授業実践や指導改善について協議したり、検証問題を実施したりしながら授業力向上を目指してきた。

■ 実施日

令和5年4月18日

■ 対象学年

小学校第6学年
中学校第3学年

■ 調査内容

【教科】

国語
算数・数学
英語

【質問紙】

児童生徒質問紙
学校質問紙

■ 留意点

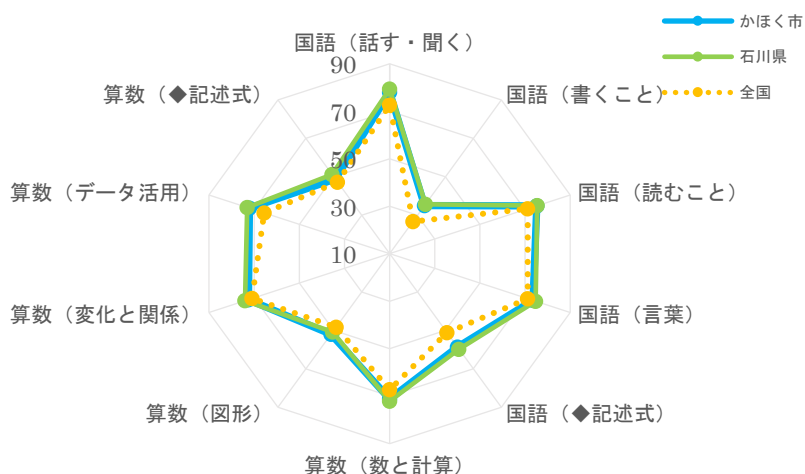
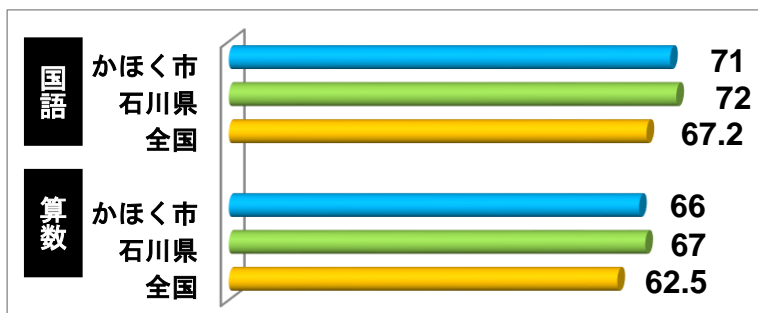
本調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、また学校における教育活動の一側面であることから、教育上の効果や影響等に十分配慮して扱うこととする。

3. 教科に関する調査の結果

小学校6年

【傾向】

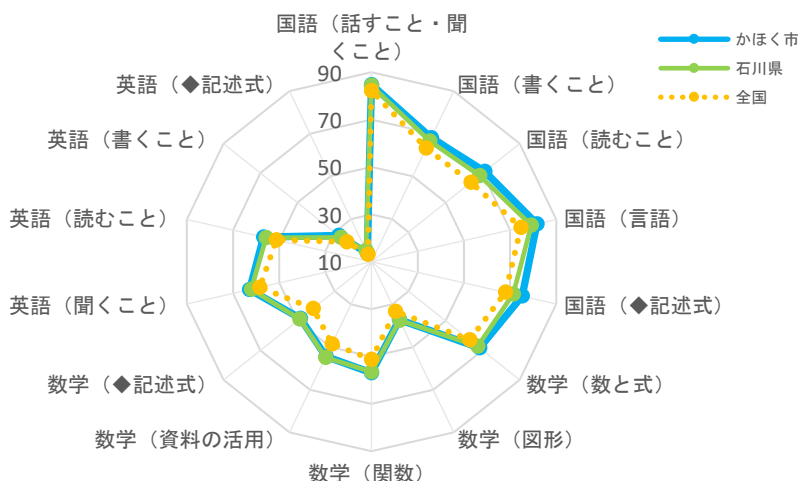
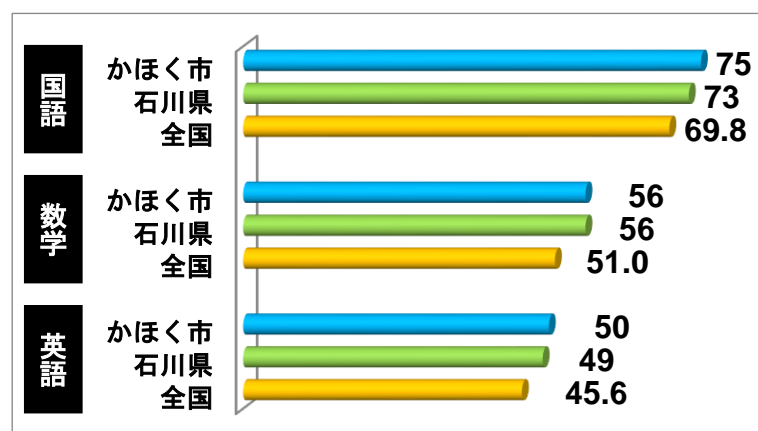
- 国語、算数ともに県平均をわずかに下回ったものの、全国平均は上回った。
- 国語、算数ともに無解答率が全国及び県よりも低く、問題解決への意欲は高い。
- △ 国語、算数ともに「記述式」の正答率が全ての設問において県平均をやや下回った。
- △ 国語の複数の情報を整理して自分の考えをまとめたり、内容として適切なものを選択したりすることにやや課題がみられる。



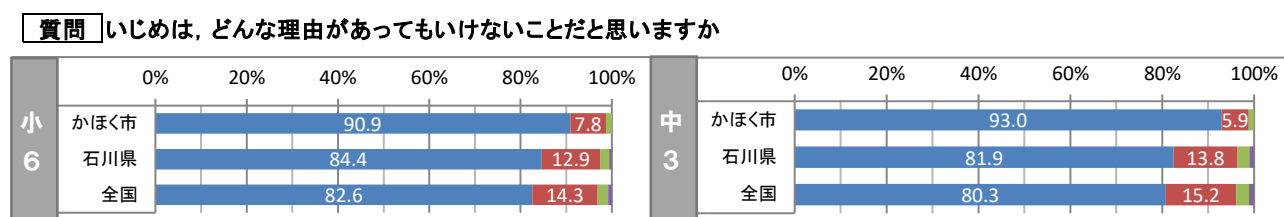
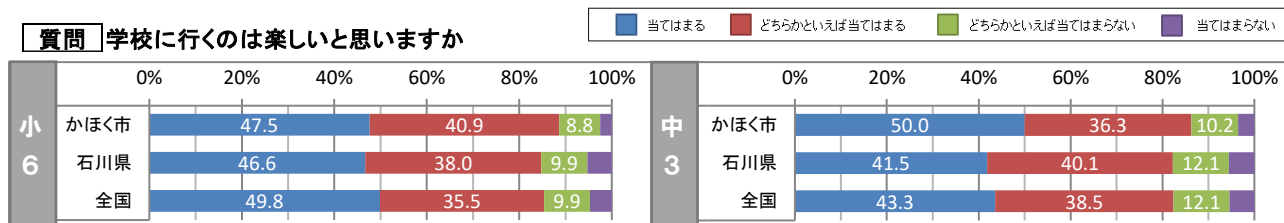
中学校3年

【傾向】

- 全ての教科において全国及び県の平均を上回った。
- 「記述式」の平均正答率は、国語で県平均を3%以上上回っており、数学では、5問中4問で県平均を上回った。
- △ 数学では、複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がみられる。
- △ 英語の「聞くこと」において、日常的な話題について、短い情報を正確に聞き取ることに課題がみられる。



4. 児童生徒に対する質問紙調査の結果



【傾向】

かほく市と県全体を比較すると、

- 学校が楽しいと思い、授業での課題解決に向けて取り組んでいる児童生徒が多い。
- 規範意識が高く、いじめはどんな理由があってもいけないことだと答える児童生徒が多い。
- 1人1台端末などのICT機器の授業における活用は県平均を上回っている。
- △ 将来の夢や目標を持っていると答えた児童生徒はやや少ない。
- △ 授業時間以外に勉強をしたり読書をしたりする児童生徒が少ない。
- △ 先生の褒め・認めを感じている児童生徒は多いが、小学校では、自己肯定感が県平均を下回っている。

その他の質問項目から	小学校		中学校	
	肯定的な回答の割合(%)	県平均との差	肯定的な回答の割合(%)	県平均との差
国語の勉強は好きですか	58.8	-2.5	55.1	-10.1
算数・数学の勉強は好きですか	65.0	-1.1	71.9	9.8
英語の勉強は好きですか	74.7	4.4	59.8	6.5
学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(1時間以上)	52.5	-8.0	56.6	-2.2
学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(30分以上)	30.6	-4.5	19.1	-6.7
自分には、よいところがあると思いますか	77.2	-5.3	80.8	1.0
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	91.3	1.3	91.0	5.3
先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか	97.8	3.1	93.4	4.1
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)	72.2	-2.1	57.5	-1.4
これまでに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	78.4	-3.5	89.9	7.6
小5、中2までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか → 週3回以上	66.0	5.8	74.2	7.2

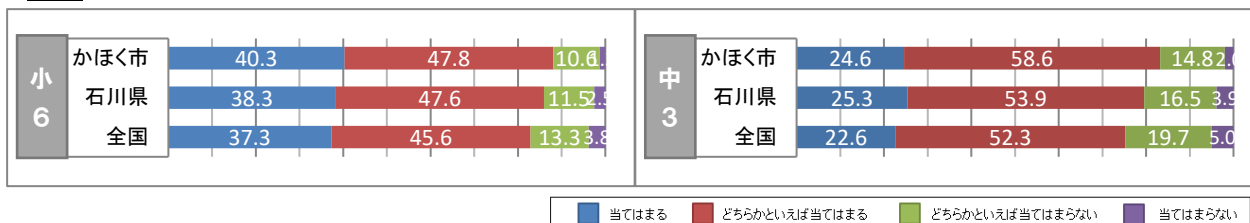
令和5年度 かほく市 学校教育の重点

- 1 ねらいを達成する
授業後半の深い学びの充実
- 2 組織的な特別支援教育と
新たな生徒指導の推進
- 3 不登校の未然防止と
一人一人に応じた対応
- 4 教職員の研修体制の再構築
と若手ミドルリーダーの育成
- 5 中学校
部活動地域移行の推進

5. 全体を通して

- ◆ 小6、中3ともに、全国平均に比べ「記述式」の問題の正答率が高いことから、「書く力」の育成が図られていることが分かる。また、「英語の勉強は好き」の質問において県平均を上回っており、前向きに取り組んでいることが分かる。
- ◆ 「家庭の蔵書数」が多い児童生徒や、「計画を立てて学習をしている」「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」の質問において、肯定的な回答をする児童生徒の平均正答率が特に高いという傾向がみられた。
- ◆ ICT機器の活用について、昨年度は県平均に比べ小学校においてやや低い傾向にあったが、今年度は小中ともに県平均を上回り、積極的な活用が推進されていることが分かる。
- ◆ 各学校では児童生徒の成長やつまづきなどの理解に努め、個に応じた指導や教材の工夫などが進められていることがうかがえる。

質問 これまでに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか



6. 今年度の課題と改善の方向性

- ◆ 今年度の学力調査において、平均正答率は全国平均を上回ったものの、小学校では県平均をやや下回っており、学習内容の定着が十分ではない児童生徒がみられる。そのため、授業のユニバーサルデザインと個に応じた指導が一層求められる。また、小学校においては記述式の設定にも引き続き改善を図る必要がある。そこで、各学校の課題解決に向けた取組とともに、次の3点を学力向上の重点として取り組むこととする。



- ◇ 児童生徒一人一人の実態に応じた授業づくりを工夫する
- ◇ 子ども主体の授業に向けて、1人1台端末を効果的に活用する
- ◇ 他校の同一教科担当者や小中で連携し、指導の連続性を図る

- ◆ 今後も引き続き、小中で連携して、一人一人のよさや多様な考えを生かすための手立てを工夫し、ICT機器を効果的に活用した分かりやすく深まりのある授業づくりを推進する。